

被占領地のパレスチナ人民蜂起は、米帝シユルツの和平案も認めず、五月目に入った。パレスチナ・アラブ人民の闘いは、シオニストの凶暴な弾圧にもひるむことなく続けられている。蜂起の持続的な闘いは、

パレスチナ革命の人民権力の確立の闘いの質をもって、社会、経済における民族的自立の基盤を形成してきた。同時に防衛委員会の形成にみられる人民の自衛のための機関の形成として発展させられている。

シオニストは、それ自身反動的な

スムーズの和平案も認めず、その本質である拡張主義を明確にしてきている。それは、蜂起への政治的解決への拒否を意味している。

土地の日を軸に蜂起のさらなる発展を恐れるシオニストは、ありとあらゆる手段をもって人民の闘いをおさえようとしてきたが、弾圧はより人の怒りを激しくさせるだけである。そして、力で押さえつけられれば、反動もまた、この蜂起の解体のため策動し、パレスチナ人抜きのシオ

ニストとの共存の道を探そうとしている。

米帝は、その戦略的同盟者であり、パレスチナ革命は、被占領地内の蜂起の継続とパレスチナ革命の勝利に向かって、敵の策動を打ち破り、パレスチナ人民の唯一合法の代表であるPLOを抜きに中東における和平がないことを米帝、反動勢力に知

パレスチナ蜂起と中東和平

一九八八年四月一〇日

月刊
中東レポート

第34号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

パレスチナ蜂起と中東和平.....	1
PLO被占領地蜂起民族統一指導部アピール11号(抄訳) (資料①).....	8
PFLP機関誌アル・ハダフからの統計資料 第904号 (資料②).....	9
PLO被占領地蜂起民族統一指導部アピール12号(抄訳) (資料③).....	9
PLO蜂起民族統一指導部アピール13号(資料④).....	10
激動の中東ドキュメント(1988年3月10日~4月10日).....	11
編集後記.....	18

る。どちらが暴力で解決しようとしているのか、それは誰の目にも明らかである。国際世論を無視し、力のみで解決できると信じているのはシオニスト自身である。ラビンは、「アラブ人よ、おまえたちは、土地の日をつくた。今、誰が強いか比べてみよう」とまで言っている。そして、この攻勢こそ、シオニストが問題を解決する能力を持つていないことの証明でしかない。首相のシャミルは、PLOとの話し合いを拒否しているのみならず、米帝が提案しているパレスチナ人を抜きにした和平案にすら反対し、占領地を離さないことを何度も言明しており、また、「ハト」派の外相ペレスですら、米帝の和平案に賛成しても、パレスチナ人民の代表であるPLOとの話し合いは拒否し、また、パレスチナ人民の民族的権利である自決権をいつさい承認していない。誰が話し合いを拒否しているのか。

動は、シオニストに政治的、経済的
社会的に打撃を与えてきた。政治的
には、シオニストの手先の役割をし
ていたパレスチナ人警察官、「民政」
のもとにある「自治体」、「村落」
委員会のパレスチナ人メンバー、税
務署員の P.L.O の呼び掛けに応えた
集団辞任が、シオニストの「民政」
の完全な破綻を作り出している。ま
た、経済的には、税金の不払い、イ
スラエルの商品の完全なボイコット。
また、「イスラエル」での労働のボ
イコットによって深刻な打撃を与え
ている。三月二一日の「イスラエル」
の経済相の発表によると蜂起による
経済損失は三億ドルに及んでいる。
この主原因は、ストライキと被占領
地での「イスラエル」商品の売上の
低下であると言っている。昨年度、
シオニストは、西岸とガザに九億ド
ルの輸出を行つていた。また、ファ
シスト・アリエル・シャロン貿易工
業相によれば、食品、繊維、建設資
材産業が最悪の打撃をうけていると
言つてゐる。イスラエルの経済は、
南アの人種主義者がそうであるよう
に、パレスチナ人を下層労働力とし
て利用してきた。その数は一〇万人
以上に達し、イスラエルの全労働力

ストライキによる欠員と運送の困難は、イスラエルの産業の四〇パーセントに影響を与えている。中小企業は、労働力の不足で事業削減しなければならず、とくに建設部門では、労働力の四二パーセントがパレスチナ人であり、また、パレスチナ人労働力に頼る農業も影響をうけ、オレンジなどの収穫が遅れている。

社会的にはすでにさまざまに報道されてきたように、「イスラエル」の「正義」を信じこまされた「イスラエル」兵士たちのモラルに深刻な影響を与えている。一部には、出動を拒否し、軍法会議にかけられるものが、また、被占領地での暴力を振るうことを日常としていることが社会生活に及ぼす影響も、「イスラエル」内では、大きな問題となってきた。

なぜなら、彼らの敵は、銃も持たず、ただ石を投げつける若者たちであり、また、ストライキで閉じてゐる商店を暴力で開けさせ、青年たちを撃ち殺し、殴りつけることをこの五ヶ月間の仕事としており、自分たちの「正義」の実態を見せつけられているからである。

服従運動を統一的に発展させている。同時に、この不服従運動の継続は、パレスチナ人民の自力更生の社会的政治的、経済的な基盤の確立を要求していた。パレスチナ人民は、それを人民委員会の形成を軸に、人民自身による経済、社会的な基盤を形成している。とくに蜂起民族統一指導部は、各家庭での食糧生産を奨励し、「イスラエル」による封鎖にも対抗できるようにしている。また、パレスチナの民族企業に対しては、生産の拡大を奨励し、「イスラエル」での労働をボイコットした人々、また、辞任した警官などを受け入れるように指示している。また、商店経営者に対しては、朝の時間だけ、パレスチナ人民に対して開き、人が必要とするものを提供できるように指示されており、それ以外の時間はストライキを継続している。また、人民委員会による生活の困難な家族、殉教者の家族、負傷者やシオニストに拘留されている人々の家族に対する支援を行っている。これらは、より経済、社会的にもシオニストの侵略に対抗する力を形成している。

させることが必要とされている。

こうした予防的措置は、六七年占領地のみならず、四八年ライン内にも適用された。ラカハ共産党的アラブ人メンバー一〇人の逮捕が行われ四八年ライン内のパレスチナ人が六年占領地のパレスチナ人に呼応してゼネストをするのを阻止しようとした。また、シオニストの御用「組合」であるヒスタドルートは、パレスチナ・アラブ人のゼネストに反対する立場を隠そうとしなかつた。同時に、四八年ラインのパレスチナ人の叛乱を恐れるヒスタドルートは、ゼネストに参加するアラブ人を首にするなど企業に勧告するなど、懐柔的な方法も用いている。これは、ゼネストへの弾圧によつて、四八年ラインのパレスチナ人とユダヤ人との対立が決定的なものになれば、事態がもつと悪化するとの判断から行われている。

同時に、こうした「平和」的手段のみならず、国防相ラビンは、セツラーに対し、「生命の危険」がある場合は、パレスチナ人に火器を作用してもよいという許可を公式にあつた。これらの措置によって、外国報道機関は、被占領地内で何を行わっているかを知ることはできなくなつた。

たえた。すでにセツラーはパレスチナ人の殺人を行っているが、これにシオニスト政府が公式に承認を与えた。シオニストによる殺人は二〇〇人を越えている。また、一二〇〇〇人以上が拘留されている。そのうち四七五〇人がなんらの法的手続きを経てない行政拘留である。膨大な数の拘留者のために被占領地の学校は、収容所にされてしまつてゐる。戦闘的な難民キャンプ、村、町に対する封鎖が続けられ、住民は生存の危機に置かれている。ナブルスから伝えられるところによると、一五日間封鎖され、食糧の運び入れが許されず、食糧、燃料が底をつき住民の生活が危機的な状態に直面し、ラマラなどでは、水道の切断に備えて、井戸を捜している。ひどい状態のところは、難民キャンプや小さい村で、すでに、水源までシオニストに止められているところがある。また、蜂起の拠点に対するヘリコプターを使った突入、大量逮捕などが日常的に行われている。さらに、シニストは、蜂起鎮圧のための新兵器を使つてゐる。ひとつは、鉄道線路に使われているバラスを打ち出すキヤノンや迫撃砲を発明し、バラスをデモ隊に打ち込むというもの。また

もうひとつは、現在国際的にも問題となっているが、催涙ガスの代わりにシオニストが使っている毒ガスである。このガスは、浴びると激痛に襲われ、すでに二人がこのガスで死んでいる。また、ラマラでは、このガスが原因で、六〇人以上の妊婦が流産になり、パレスチナ人が生まれる前に殺されている。

シオニストは、世界の目から非占領地を覆い隠し、暴力的な弾圧を欲しいままにした。その結果として、このブラック・アウトの期間中には、シオニストの発表で一日八人のパレスチナ人を虐殺しており、これは一日の殺人數としては最高となつた。また、負傷者四〇〇人以上にのぼり、逮捕者は一二〇〇人以上で、そのほとんどが四八年ラインのパレスチナ人である。それは、明確にシオニストがこれまで以上に残虐な弾圧を行つていたことを示している。このことは、弾圧の最高責任者であるラビン自身が、この虐殺のイニシアチブをシオニスト自身がとったことを認めている。

四月四日、ラビンは、「われわれは、蜂起の鎮圧のために攻勢に出ている」とかたり、同時に「暴力ではなく解決しないことをパレスチナ人

そして、特記すべきこととしては、各人民委員会のもとに防衛委員会が形成されてきたことである。これは、直接的には、パレスチナ警官の辞任によって、自分たちで安全を計つていくことが必要になつたためである。シオニストは、パレスチナ人民に混乱を与えるために、パレスチナ人の一般犯罪者三〇〇人を釈放し、パレスチナ人に対して、何をやつてもよいという許可を彼らに与えている。また、この委員会は、シオニストの攻撃に備えている。さらに、防衛のみではなく、敵に対するゲリラ的攻撃を行うものとして“特別部隊”を作っている。もちろん、この部隊も火器を持っているわけではなく。投石や火炎びんで敵をゲリラ的に攻撃し、混乱を与えることをその役割としている。火器による武装は行っていないが、人民の自衛武装に発展する要素として重要なものである。

こうした蜂起民族統一指導部による人民の組織化は、さらに蜂起の持続性を作りだしていくだろう。また、それは形成されるべき民主パレスチナ国家の基礎となっていくものである。

こうしたパレスチナ革命の発展に

わらず、シャミルのリクード・ブルックとペレスの労働党が対立した状態にある。しかし、米帝のシャミル説得の失敗で、ペレスの立場は弱くなっている。また、シャミルの訪米時、帰国時の二〇万人を越すシャミル支持デモは、ペレスを動搖させるに十分であった。それゆえに、シャミルが和平案を受け入れなければ総選挙に持ちこむというペレスの警告は、シャミルの帰國後は弱々しいものになつた。

とくに、シャミルは、西岸、ガザのセツラー、右翼シオニストの強力な支持を得ており、また、労働党の重鎮であるラビン国防相ですら、シャミルと同一の立場に立つている。

このため、労働党は、不利な状況に置かれ、総選挙に持ちこめない状況にある。また、別の要素としては、蜂起のなかで総選挙に持ちこめば、その混乱でパレスチナ側を有利にする立場にたつた。

米帝は、失敗の印象を与えないために、シャミルが明確にノーと答えたわけではないとごまかしている。

その後、米帝は反革命陰謀を得意と

形成されってきたことである。これは、直接的には、パレスチナ警官の辞任によって、自分たちで安全を計つていくことが必要になつたためである。シオニストは、パレスチナ人民に混乱を与えるために、パレスチナ人の一般犯罪者三〇〇人を釈放し、パレスチナ人に対して、何をやつてもよいという許可を彼らに与えている。また、この委員会は、シオニストの攻撃に備えている。さらに、防衛のみではなく、敵に対するゲリラ的攻撃を行うものとして“特別部隊”を作っている。もちろん、この部隊も火器を持っているわけではなく。投石や火炎びんで敵をゲリラ的に攻撃し、混乱を与えることをその役割としている。火器による武装は行っていないが、人民の自衛武装に発展する要素として重要なものである。

このことは、ラビン自身も知っている。ベイタ村で起こった極右シオニスト・セツラーとパレスチナ人のデモ隊の衝突で、一四歳の少女のセツラーが死んだ事件で、セツラーは、パレスチナ人が殺したとデマを流し、パレスチナ人が殺したとデマを流し、セツラーとパレスチナ人の対立を激化させ、パレスチナへの弾圧を強化させ、パレスチナへの弾圧を強化させようとした。しかし、シオニスト軍は、蜂起の拡大を恐れるあまり、真実を発表した。この少女は、投石で射殺され、それはセツラーナーのガードが持っていた銃から発射されたものであった。パレスチナ人は、投石を行っていただけであり、パレスチナ人の側もこのガードによつて銃撃され、二名が殺され多数が負傷している。また、パレスチナ人がガードの銃を奪つて撃つたとセツラーナーは主張したが、奪われた時にはすでに弾薬はなくなっていたことが証明されていた。セツラーは、パレスチナ人が民間人を殺したと騒ぎたて、への回答を三月一五日までに出すことを要求していたが、「イスラエル」を含めてそれを明確に支持した国は、一国もなかつた。シャミルが三月一四日から訪米し、シユルツ、レーラーと会談したが、シャミルの立場を

蜂起の終結どころか、蜂起のさらなる発展とシオニストの破綻をもたらすだけである。

このことは、ラビン自身も知っている。ベイタ村で起こった極右シオニスト・セツラーとパレスチナ人のデモ隊の衝突で、一四歳の少女のセツラーが死んだ事件で、セツラーは、

「イスラエル」を信じる極右シオニストであり、パレスチナ・アラブ人民を被占領地から抹殺することを望んでいる。

セツラーのほんんどは、シオニスト軍は、蜂起の拡大を恐れるあまり、真実を発表した。この少女は、

弱腰に見られないために行つたものである。同時に、こうした民族主義を決定した。シオニストのパレスチナ人民に対するテロが明確になつて

一方、シャミルの訪米前に、米国議会は、国連のPLOの代表部の閉鎖

問題に対する態度の本質が示された

いた。米国政府と議会が国民世論ではなく、ユダヤ資本を背景としたシ

アラブ連邦である。米帝は、国際世論がどう言おうと、貫してシ

オニストのテロを防衛してきた。まことに、米帝が和平の仲介者ではなく、シオニストの側に立つていることを示すものであった。

シオニスト内部においては、相変

弱腰に見られないために行つたものである。同時に、こうした民族主義を決定した。シオニストのパレスチナ人民に対するテロが明確になつて

一方、シャミルの訪米前に、米国議会は、国連のPLOの代表部の閉鎖

問題に対する態度の本質が示された

いた。米国政府と議会が国民世論ではなく、ユダヤ資本を背景としたシ

アラブ連邦である。米帝は、国際世論がどう言おうと、貫してシ

オニストのテロを防衛してきた。ま

ことに、米帝が和平の仲介者ではなく、シオニストの側に立つていることを示すものであった。

シオニスト内部においては、相変

弱腰に見られないために行つたものである。同時に、こうした民族主義を決定した。シオニストのパレスチナ人民に対するテロが明確になつて

一方、シャミルの訪米前に、米国議会は、国連のPLOの代表部の閉鎖

問題に対する態度の本質が示された

いた。米国政府と議会が国民世論ではなく、ユダヤ資本を背景としたシ

アラブ連邦である。米帝は、国際世論がどう言おうと、貫してシ

オニストのテロを防衛してきた。ま

ことに、米帝が和平の仲介者ではなく、シオニスト

するよう、呼びかける。

七、蜂起民族統一指導部は、市の安全を計るために人民委員会が防衛委員会を形成するよう、呼びかける。

八、蜂起民族統一指導部は、辞任した警官、税務署署員、建設労働者を受け入れることによって協力するよう、民族的産業機関に呼びかける。

九、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ農民・労働者がキャンプ、町の封鎖に対決し、自給できるよう、経験のある農業機関に援助を呼びかける。そして、封鎖されているキャンプ、町を支援せよ。

一〇、労働と生産を強化、発展させよ。ストライキは、わが祖国での労働をしないということを意味しない。

以下は、蜂起民族統一指導部の指令である。

一、四月四日月曜日は、シユルツ和平案に抗議と拒否を示すためのゼネストの日である。米特使とPLOのコンタクトをボイコットすることを確認する。

二、四月四、五、六日、月、火、水曜日は、さまざまな方法による闘争を行う日とせよ。特別部隊は、シボニスト軍兵士に対しての作戦を遂行せよ。ストライキとデモを行え。

三、四月五日火曜日は、民族的労働を支援せよ。

四、四月一四日から一六日、木曜日から土曜日は、集団逮捕、経済攻撃に対するゼネストの日と考えよ。

五、四月一七日日曜日は、獄中者の日である。赤十字事務所、民族的機関の事務所での座りこみを行い、獄中者との連帯のために、ハンガーナ教育機関の連帯の日と考える。

六、四月一八日月曜日は、パレスチナ教育機関の連帯の日と考へる。

七、四月一九日火曜日は、殉教者、として、敵が行つた教育機関閉鎖決定と対決せよ。

八、四月二〇日水曜日は、民族的統一周年）。民族的経済の建設、各々の家庭での農業生産を強めよ。

九、四月二一日木曜日は、火災びん投げを認めたシオニスト当局が火炎に抗議するゼネストの日である。

一〇、企業によつては、ゼネスト中の賃金を支払わないものがあるため、支払うよう呼びかけている。

一一、すべての商人は、朝、閉店させようとする敵の決定に対決せよ（注七）。すべての商店は、朝八時から一時の間のみ、店を開けよ。

ラマダン月は、午後二時から五時まで、開けよ。

一二、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ人民に注意を喚起する。シオニストのスパイが、分裂を企てようとしている。スパイが流す噂に警戒し、民族的人士の利益を破壊しようとしていることに警戒せよ（注六）。

一三、蜂起民族統一指導部の指令である。

一四、すべての商人は、朝、閉店させようとする敵の決定に対決せよ（注七）。すべての商店は、朝八時から一時の間のみ、店を開けよ。

ラマダン月は、午後二時から五時まで、開けよ。

一五、四月一二日火曜日は、デモの日と考えよ。

一六、四月一三日水曜日は、ベイタ村（注八）への寄付、連帯の日と考えよ。すべての人は、一〇時に、デモ

月刊 中東レポート

するように、呼びかける。

七、蜂起民族統一指導部は、市の安全を計るために人民委員会が防衛委員会を形成するよう、呼びかける。

八、蜂起民族統一指導部は、辞任した警官、税務署署員、建設労働者を受け入れることによって協力するよう、民族的産業機関に呼びかける。

九、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ農民・労働者がキャンプ、町の封鎖に対決し、自給できるよう、経験のある農業機関に援助を呼びかける。そして、封鎖されているキャンプ、町を支援せよ。

一〇、労働と生産を強化、発展させよ。ストライキは、わが祖国での労働をしないということを意味しない。

以下は、蜂起民族統一指導部の指令である。

一、四月四日月曜日は、シユルツ和平案に抗議と拒否を示すためのゼネストの日である。米特使とPLOのコンタクトをボイコットすることを確認する。

二、四月四、五、六日、月、火、水曜日は、さまざまな方法による闘争を行う日とせよ。特別部隊は、シボニスト軍兵士に対しての作戦を遂行せよ。ストライキとデモを行え。

三、四月五日火曜日は、民族的労働を支援せよ。

四、四月七日木曜日は、アル・キャタル・アル・フェセイニの殉教の日である。シオニスト兵と入植者に対するアル・キャステルに変えよ。

五、四月九日土曜日は、蜂起の最初の殉教の日である。そして、デイル・ヤシン虐殺の日であり、蜂起五カ月めである。人民の権力の日である。

六、四月九日土曜日は、蜂起の最初の殉教の日である。そして、デイル・ヤシン虐殺の日であり、蜂起五カ月めである。人民の権力の日である。

七、四月八日、一〇日の金曜日と日曜日は、祈りの日と考えよ。モスク、教会から、デモを行え。

四、蜂起民族統一指導部は、国際保健の日を尊重する。すべての医師、看護婦（夫）、薬局は、キャンプ、村、町の負傷者に対する義務を遂行せよ。保健機関で働く人々は、治療を行え。

五、蜂起民族統一指導部は、国际保健の日を尊重する。すべての医師、看護婦（夫）、薬局は、キャンプ、村、町の負傷者に対する義務を遂行せよ。保健機関で働く人々は、治療を行え。

六、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ人民の社会・経済的な統一と共に感覚する。そして、人民委員会、員会、警察に残っている人々に、辞任することを呼びかける。また、税金不払いの徹底を呼びかける。

七、蜂起民族統一指導部は、いわゆる「家内生産」（注三）を发展させることを呼びかける。ラマダン月においても、シオニストの生産物拒否を行え（注四）。

八、蜂起民族統一指導部は、蜂起への支援を发展させるよう、すべての大衆的・民主的勢力に呼びかける。

九、蜂起民族統一指導部は、アラブ連盟緊急首脳会議開催を呼びかけたアルジェリアの立場に感謝する。同時に、アラブ諸国の中には、開催延長から辞任したパレスチナ労働者をもつと雇用するよう、被占領地のすべての工場、機関に對して呼びかけられ。そしてゼネストの際の労働者賃金をひかないよう、確認する（注一）。

五、蜂起民族統一指導部は、生産を拡大すること、また、シオニスト機関から辞任したパレスチナ労働者を助けるため、封鎖されている人々、行い、村と家内経済を發展させよ。化するよう、すべての労働者に呼びかける。

六、蜂起民族統一指導部は、パレスチナ人民の社会・経済的な統一と共に感覚する。そして、人民委員会、員会、警察に残っている人々に、辞任することを呼びかける。また、税金不払いの徹底を呼びかける。

七、蜂起民族統一指導部は、いわゆる「家内生産」（注三）を发展させることを呼びかける。ラマダン月においても、シオニストの生産物拒否を行え（注四）。

八、蜂起民族統一指導部は、蜂起への支援を发展させるよう、すべての大衆的・民主的勢力に呼びかける。

九、蜂起民族統一指導部は、アラブ連盟緊急首脳会議開催を呼びかけたアルジェリアの立場に感謝する。同時に、アラブ諸国の中には、開催延長から辞任したパレスチナ労働者をもつと雇用するよう、被占領地のすべての工場、機関に對して呼びかけられ。そしてゼネストの際の労働者賃金をひかないよう、確認する（注一）。

四、蜂起民族統一指導部は、労働者

トの日と考えよ。全民族勢力は、殉

トの日と考えよ。自主的に農作業を

委員会を拡大し、労働者の鬱いを強

化すること、また、シオニスト機

関から辞任したパレスチナ労働者を

助けるため、封鎖されている人々、

行い、村と家内経済を發展させよ。

六、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

七、蜂起民族統一指導部は、指導の

命令である。

八、蜂起民族統一指導部は、いわゆ

る「家内生産」（注三）を发展させ

ることを呼びかける。ラマダン月にお

いても、シオニストの生産物拒否を行え（注四）。

九、蜂起民族統一指導部は、蜂起への

支援を发展させるよう、すべての大

衆的・民主的勢力に呼びかける。

十、蜂起民族統一指導部は、アラブ

連盟緊急首脳会議開催を呼びかけた

アルジェリアの立場に感謝する。同

時に、アラブ諸国の中には、開催延

長から辞任したパレスチナ労働者を

もつと雇用するよう、被占領地のす

べての工場、機関に對して呼びかけ

られる。そしてゼネストの際の労働者賃金をひかないよう、確認する（注一）。

十一、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十二、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十三、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十四、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十五、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十六、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十七、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十八、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

十九、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十一、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十二、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十三、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十四、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十五、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十六、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十七、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十八、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

二十九、蜂起民族統一指導部は、パレス

チナ人民の社会・経済的な統一と共

に感覚する。そして、人民委員会、

員会、警察に残っている人々に、辞

任することを呼びかける。また、税

金不払いの徹底を呼びかける。

三十、蜂起民族統一指導部は、パレス

- アラファート議長、アラブ緊急サミット四月開催を要求。また、三月初旬にあつたデモナ核基地行き軍事バス乗つとり作戦の支持表明。
 - シュルツ新「和平案」
 - ① シュルツ、訪米開始。
 - ② アラブ連盟パレスチナ蜂起支援運動員委員会の代表団、一月二五日のアラブ連盟決定に従い、国連安保理常任理事国工作開始。
 - 都市戦、本式再開。
 - ガルフ戦争
 - 三月一五日（火）
 - パレスチナ人民の蜂起
 - 指令「〇」号に基づき、ガザ、西岸のゼネスト。一〇万人以上のパレスチナ人が、イスラエルへの労働ボイコット。
 - 西岸のデモで二名が射殺され、多数が負傷。
 - 公務員の辞職が、病院関係労働者に広がった。イスラエル当局は、辞表をつき返しているとされる。
 - 西岸のカルキリヤで、入植者がパレスチナ人を襲撃し、これに軍が介入。パレスチナ人が三〇名以上強化。ガソリン補給を禁止。西岸からの付加価値税収入が二〇%減少。

- ・シユルツ新「和平案」—シャミル・シャミル—シユルツ会談、シャミル—カールツチ会談があつた。
- ・南部の反イスラエル・レジスタンス
- ・ガルフ戦争
- ・ハジビッラーが、「SLA」、ポスト三カ所を同時攻撃。「SLA」数名を負傷させた。
- ・イラク都市戦続けた。
- ・パレスチナ人民の蜂起
- ・GCC外相会議
- ・指令一〇号に基づくゼネスト二日め。
- ・ガザ、西岸で大規模なデモ。イスラエル軍は、発砲、四人を射殺。さらに、西岸、ガザの国際電話回線を切り、西岸—ガザ往来に対しても許可制を導入。デモ、抵抗の激しい地区に対する外出禁止令を次々と出した（西岸、ガザを外界から遮断する一方、西岸—ガザの分断体制をとった——編注）。
- ・アラブ連盟会長、アラブ緊急サミットを四月初旬アルジェかチュニスで開催予定と発表。

- 訪米
・ シニルツ新「和平案」・ リシヤミル
レバノン

・ 南部の反イスラエル・ レジスタンス
① アマルが「S.L.A」攻撃により、一六人をせん滅。

② ジャージーに、カチューシャ・ロケット一四発うちこんだ。

③ ドルーズが「セキュリティ・ゾーン」内へ攻撃かけた(カマル・ジュンブラット暗殺記念闘争)。

④ イスラエル北部に、カチューシャ・ロケット攻撃あつた。

三月一七日(木)

パレスチナ人民の蜂起

・ 指令一〇号に基づき、西岸、ガザでゼネストと限定商店スト。一日に三時間しか営業しないスト。イスラエルは、この部分スト切り崩しとして、実力で閉店させて回る。また、村人の果樹をブルドーザーで掘りおこし、破壊して回った。大量検挙、始まる。

・ ガザは、夜間外出禁止令。西岸の四ヵ所にも外出禁止令。

・ パレスチナ通信によると、昨日の死者は六人。

三月一八日(金)

・ イスラエル、南部を爆撃。今年三回め。

・ シヤミル訪米(公式訪問は、今日で終了)。

・ イスラエル、南部を爆撃。今年三回め。

・ ガザで青年が一人殺された。負傷者、三〇名近い。

・ イスラエルは、新しい鎮圧の武器として、ヘリコプターで、デモ隊に砂利をおとすやり方を始めた。逮捕された。

・ イスラエル北部の村で、パレスチナ人青年二名が、パレスチナ旗を掲げ、車に投石したという理由で連共産党幹部リガコフと会談し

三月一九日(土)

・ シュルツ新「和平案」

① レーガン、ハビブ特使をすぐに中東に派遣すると発表。

② イスラエル共産党代表団が、ソ連共産党幹部リガコフと会談し

① フセイン国王、二日間のサウジ訪問。
② 首相リファイ、今日から一日間訪ソ。

- 案発表。イランも、停戦提案。

三月一日（金）
パレスチナ人民の蜂起

 - 昨日の蜂起指導部指令一〇号に基づき、パレスチナ人警官が三〇〇人、辞職。また、ナブルスのモスクでの礼拝時に、「二度と、イスラエルのために働くかない」と誓う裏切者のざんげがあつた。
 - 西岸、ガザで、金曜礼拝後のデモイスラエル軍との衝突多発。
 - シュルツ新「和平」案を、シャミル首相が拒否声明。
 - 米法務省長官、国連のPLO事務所に対し、二二日までの閉鎖を命令。シュルツは、それを批判。
 - ヨルダン国王、カイロへ。
 - スウェーデン外相、ヨルダン訪問を終え、シリアへ。
 - ギリシア首相、「現情勢下では、イスラエルとの完全な交樹立はできない」と語る。
 - PFLPの政治局員がシリアに逮捕された。
 - ガルフ戦争
休戦に入つた。
三月一二日（土）
パレスチナ人民の蜂起

- 西岸、ガザのパレスチナ人警官（一三〇〇人）の約半数が辞職。イスラエルは、「特別機動隊」特設により、パレスチナ人裏切者の防衛を西岸、ガザ公務員（二万人）も、続々と辞職。
- ヘブロンで、イスラエル軍の手榴弾攻撃があつた。
- ラマッラ近郊のアマリ・キャンプを、イスラエルの「占領を止めさせる会」三〇人が訪問し、連帯この会が帰った後、同キャンプでデモ、衝突。負傷者、逮捕者多数が出た。
- シュルツ新「和平案」
- ① イスラエル紙の世論調査では、四六・二%が支持、三六・七%が反対。
- ② P L O のアラファト議長、P I O 側の和平要求に対し、シュルツ案は、国際会議に P L O の自代表権を認めでいないとして拒否。
- ③ エルサレムで、ピース・ナウが支持デモ。一〇万人动员。レバノン・シリアルスチナ勢力の軍事基地五カ所を爆撃。一〇人が殺された（今年二回め）。

- ・ファタハのアブ・ジハドは「どんなにレバノン内の基地を爆撃しようと、被占領地の蜂起は止められぬ。この攻撃に対し、断固、反撃する」と語った。
 - ・PFLPのハバシュ議長、政治局員逮捕問題は、誤解によるものとの談話発表。
 - ・米国務省北アフリカ・近東局長マーフィーが、近くシリア入りするとの報道（レバノン問題につき）。
 - ・東ベイルートで、ジエマイエル大統領派がジャジャ派のLFLカードル二名を射殺（以後、両派の暗殺合戦となる）。
 - ・ガルフ戦争
 - ・都市戦休戦にもかかわらず、イラン、イラク双方とも、攻撃しあう。また、双方が油田攻撃。
 - ・伊艦隊、エジプトとの初の合同演習のため、アレキサンドリア入り。
 - 西岸、ガザのパレスチナ人警官の半数以上が辞職。ヨルダン政府、「西岸のヨルダーン公務員に、辞職を呼びかけた」件で、PLO代表に訓戒。
 - （西岸の公務員は、ヨルダーン政府、イスラエルのいずれから給料をう
 - 三月一三日（日）
 - ・パレスチナ人民の蜂起
 - 三月一四日（月）
 - ・パレスチナ人民の蜂起
 - ⑤ピース・ナウの訪米団に、エルサレムのハンナ・シニオラ氏も参加（訪米後、カナダへ回り、外相と会見した）。
 - 三月一五日（火）
 - ・イスラエル、ガザ全域の夜間外出禁止令（夜一〇時から曉方の三時まで）、全域封鎖。二一年間のガザ占領で、初の措置。
 - 数日前うけた銃傷により、西岸で二名が死亡。
 - ・ガザのシファ病院で、催涙、窒ガスにより、生後二ヶ月の乳児が死亡。
 - ・昨夜、ナブルス近くで、入植者がパレスチナ人の車に発砲した。
 - ・シュルツ新「和平」案
 - ①テルアビブで、「和平案」拒否——シャミル支持デモ（一万）。
 - ②ワシントンでは、パレスチナ蜂起支持デモ（三〇〇〇人）。
 - ③明日から、シャミル訪米開始。
 - ④労働党は、アッバ・エバン（国会の国防・外交委員会委員長）を訪米させた。

- ハイファ市（イスラエル）で、パレスチナ学生委員会が、抗議集会五〇〇人が参加。
 - イスラエル、予備役動員期間延長志願・有給制の導入検討を始めた。
 - 西独のゲンシャー外相、アルジェリアへ。
 - エジプトのムバラク大統領、サウジアラビアへのシャミルの恫喝を批判。
 - レバノン
 - イスラエルがサイダ近郊爆撃。
 - タンカー戦続く。
 - E C + G C C 交渉、二六日まで、ブリュッセルで開始。
 - エジプト国防相アブ・ガザーラ、米との軍事協力強化合意に調印。
 - これで、N A T O・イスラエル並の軍事同盟関係になつた。

三月二十四日（木）

パレスチナ人民の蜂起

 - 指令一一号に基づく「教育の日」
 - 西岸の六校、生徒・学生が自主授業を行おうとしたのに対し、イスラエル軍が襲撃。八〇人以上が逮捕された。
 - 西岸のバラタ・キャンプで青年二名が胸、首を射たれて、殺された。

- 大量検挙、続く。一五日來の検挙者数は一〇〇〇人とされる。
 - バーレフ警察相、ガザの印刷屋に對し、全印刷物の許可制を強制。「捜査、手入れの結果、多くの地下出版所を破壊した」と発表。
 - イスラエルのハイファ市、イッテハド紙、発禁処分。
 - ガザ「市長」（イスラエルが任命した）、市役所への出勤を止められた。
 - イスラエル、指令一一号の作者を逮捕したと発表。
 - 労働党大会、ペレスを党首に再選
 - レバノン、イスラエル、サイダ近郊を爆撃。
 - パレスチナ組織サイダのスンニ派拠点を狙つた。九人が死に、二〇人近くが負傷。
 - 労働総同盟が三〇〇%以上の賃上げを要求。
 - 西岸南部のヘブロン市内、周辺で激突。二人が殺され、二〇人以上が負傷。
 - イスラエル、装甲車で突入し、二〇〇〇人以上を大量検挙。
 - アラファト議長、今回の蜂起の死者は二〇五人にのぼると発表（イスラエルの公表した数字は、一〇

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (319) 356-4530 or via email at mhwang@uiowa.edu.

- 三月二六日（土）

 - ・パレスチナ人民の蜂起
 - ・西岸北部のナブルスートルクラム道路を、バリケード封鎖。
 - ・四人が殺された。うち一人は、ラマッラアで、車中にいた時に、イスラエル軍に放火され、催涙弾をうちこまれた。
 - ・イスラエル首相テロ問題顧問、辞任（「イラン・ゲート」事件に関する）。
 - ・ガザ「市長」の辞任。
 - ・シユルツ新「和平案」
 - ・シユルツ、PNCメンバー二人（パレスチナ系米国人）と会見。さらに、四月初旬に、中東再訪すると発表。イスラエルは、この二人は PLO メンバーとして、会見に反対を表明（リクード、労働党とも）。
 - ・ICO 外相会議、昨年のメツカ事件につき、サウジアラビアの主張を取り上げた。イラン代表団、退場。
 - ・アラブ連盟パレスチナ蜂起支援動員委員会、レバノンへ。PLO 事務所再開問題も討議されたとのこと。
 - ・レバノン
 - ・レスチナ人民の蜂起

- ・西岸北部ジエニン近くのマイタローン村で、イスラエル軍の隣方の襲撃に抵抗した村人三人が射殺され、多数負傷、検挙された。
 - ・テルアビブ（イスラエル）北東で、火炎びんが五本投げられた。
 - ・西岸のサルフィト村（チブルスの南）で、招待うけて、連帯に来た欧米の学者のバスが村から出た直後に、イスラエル軍が突入。「誤つて、村に入りこんだ観光バスの救出」が名目。一四歳の少年一名を射殺し、多数を負傷させた。
 - ・昨年一一月二五日のキビア作戦時、前線逃亡したイスラエル兵に、軍法で一八カ月の実刑判決。
 - ・シャロン商工相、イスラエル北部視察。
 - ・西岸で、イスラエル軍が演習（先週は、ネゲブ砂漠で行った）。
 - ・シュルツ新「和平案」——四月三日からの一再訪予定発表。
 - ・イスラエル閣議、シュルツの中東再訪につき討議。労働党側は歓迎し、リクード側は「来るなら、來たらしい」。
 - ・PLO、シュルツとPNCメンバーや二人の会談につき、「重大な一步」とし、「歓迎」を表明しつつ、シュルツ再訪時にも領内のパレス

- ガザのサブラ地区に対し、イスラエル軍が夜中にのりこみ、二四時間の外出禁止令を命令し、大量検挙を行つた。
 - 西岸のラマッラアのラマッラア病院に、イスラエル軍が侵入し、病人、見舞のパレスチナ人一〇名を逮捕し、連行。同病院の医者は、抗議の座りこみを行つた。
 - シャビーバ、非合法化。
 - ブリュッセルで中東問題セミナーが開催地から、ハンナ・シニオラが出席（PLOの支持うけて）。イスラエル国会・国防・外交委員会委員長エバンも出席。
 - シュルツ新「和平案」
 - 米特使ハビブ、カイロへ。

- ・イスラエル、「S.L.A」が「セキユリティ・ゾーン」外へ侵略し、レジスタンス狩り。レジスタンスと交戦の後、撤退。
 - ・ガルフ戦争
 - ・サウジのミサイルに対し、イスラエルが恫喝。
 - 三月二一日（月）アル・カラメ勝利二十周年
 - パレスチナ人民の蜂起
 - ・指令一号に基づく「激突の日」指令一号に基づき、学校へ突入し、自主授業を行おうとした生徒学生をイスラエル軍が襲撃。
 - ・ガザの衝突で、少年一人が銃撃により殺された。
 - ・イスラエルの労働総同盟、「土地の日」のゼネストには反対だが、ゼネスト参加の結果弾圧をうけるアラブ人組合員を防衛すると発表した。
 - ・米のタイム、ニューズ・ウイークリー誌は、昨日ベツレヘムでイスラエル軍が押収したフィルム返還要求。
 - ・米政府、国連のP.L.O事務所閉鎖命令期限切れにつき、P.L.Oに対し、公共サービス停止等の措置と

For more information about the study, please contact Dr. Michael J. Hwang at (319) 356-4000 or email at mhwang@uiowa.edu.

- 国連は、この問題を再度検討。
 - 特使ハビブ、サウジへ。
 - I C O 外相会談、アンマンで開始。
 - レバノン
 - アマルが「S L A」拠点六カ所攻撃。
 - 南部のパレスチナ人、アル・カラメ勝利二十周年、領内蜂起連帯のデモ。一〇万人動員。
 - 西ベイルートで爆弾。四階建てのビルが崩壊。
 - ガルフ戦争
 - ミサイル危機
 - シリアは「サウジアラビアへの攻撃は、シリアへの攻撃とみなす」と、イスラエルをけん制。
 - 三月二二日（火）
パレスチナ人民の蜂起
 - パレスチナ人三人が殺された。うち一人は、ガザで、射殺された上に車を盗まれた。
 - P P S（パレスチナ通信）によると、イスラエル軍は、昨夜一〇カ所以上を襲撃し、労組役員、新聞記者、弁護士含む一二五人を連行した。
 - イスラエルは、入植者に対し、「火炎びんは火器、生命の危険がある」と判断された場合、発砲してよい

- そういう許可を正式に出した。
 - 国防相ラビンによると、今までに拘留したのは三〇〇〇人、行政拘留処分は七〇〇人。
 - シュルツ新「和平案」
 - シャミル、米に対し、サウジアラビアのミサイル問題に介入するよう要求。本日、帰国。シャミル支^{シテ}持者二五〇〇人が歓迎。
 - カairoで、エジプト大統領政治顧問のバズ日く、シャミル提案の「国際」会議（ソ米両国のみが参加する方式）に反対する。
 - アラブアート議長、「和平交渉期間中のレジスタンス中止はしない」と語る。
 - レバノン
 - ガルフ戦争
 - ベイルートで、A U B主催の「土地の日記念展覧会」、今日から二九日まで開始。
 - I C O外相会談、パレスチナ蜂起全面支持。
 - ヨルダンのフセイン国王、パキスタン訪問。
 - 三月二三日（水）
 - パレスチナ人民の蜂起
 - イスラエル軍、入植者への攻撃の



マンディ・モーニング誌 4月4日-10日号 No.164

● 人が負傷。
イスラエル北部のナザレで、爆弾。
パレスチナ人三人が逮捕された。
イスラエル大統領、シオニスト地
下テロ組織メンバー二名に対し、
「建国四十周年」の恩赦。

四月二日（土）
パレスチナ人民の蜂起
●西岸の三カ所で三人、ガザで三人
が銃殺された。ガザの件は、イスラエル軍が肉屋に乱入し、自衛しようとした一家三人が殺されたもの。

- 西岸のアル・ビレで、イスラエル軍がパレスチナ人一人に対し、路上にねかせ、その上に岩を積み上げた。イスラエル軍が去った後、村人が助け出した。
- 四月四日（月）
パレスチナ人民の蜂起
指令一二号出た。
- シュルツ再訪抗議ゼネストの日。
- ラビン国防相、蜂起に対する攻撃を宣言。エルサレムには六〇〇名の国境守備隊、警官が警戒体制とった。
- 仏の新聞記者九人、イスラエルからの出国時、写真、住所録等を税関で没収された。
- シュルツ新「和平案」
- シュルツ、イスラエル入り。TV

リで再刊。

四月五日（火）

シユルツ新「和平案」

●シユルツ、アンマン、ダマスカス訪問。

レバノン

●被占領地へ潜入しようとしたP.L.F（パレスチナ解放戦線）のコマンド二名、イスラエル軍と交戦し戦死。

ガルフ戦争

●インフレ抗議の二四時間ゼネスト

●南部で、アマルとハジビッラーの戦闘が始まった。

四月六日（水）

パレスチナ人民の蜂起

●ベイタ村事件、おこる。

1988年5月31日 第34号 月刊 中東レポート

- ベイルートで P L O が軍報発表。
「リマソル隊」が、イスラエル北部に力チャユーシャ・ロケット七発をうちごみ、蜂起鎮圧、サイダ爆撃に報復した。
- シヤティーラ・キヤンプで、P N S F の「土地の日」集会。
- パレスチナ人民の蜂起
- イスラエル、西岸、ガザ全域に対し、三日間の全域封鎖令。二〇年間の占領史で、初の措置。ガザは今晚の夜一〇時から四月一日の朝三時まで。西岸は、二九日の夜中一時から金曜日まで。報道関係者は、特別許可をうけ、軍の同行なく西岸、ガザに立入れない。ヨルダン国境は、入国のみ許可される。
- 昨日のサルフィット村事件につき、同バスの学者一行が抗議声明発表、
”村人から歓待され、危険な情況

・イスラエルの外人記者協会は、西岸、ガザからの実質的報道陣しめ出し令に、不服申し立て。レバノン

エジプト

- ・東ベイルートでアッディヤール紙創刊。これで、レバノンの日刊紙は四紙になつた。

パレスチナ人民の蜂起

- ・ゼネスト（西岸、ガザ）。
- ・二月に、パレスチナ人青年を生き埋めにしたイスラエル兵二名、軍法で四カ月、六カ月の判決うけた。
- ・イスラエル北部で、火炎びんが投げられた。

シユルツ新「和平案」

- ・アラブ連盟パレスチナ蜂起支援動員委員会代表団、訪米。シユルツと会見し、国連へ出席。
- ・シユルツ、次回の中東訪問では、パレスチナ人と会うだろと語つ

- ・ゼネスト。四人が殺された。西岸で五〇人近く、ガザで二〇人近くが銃撃で負傷。
- ・イスラエル内、テルアビブ、北部で数万のデモ。
- ・ベイルートで数千、ダマスカス一〇万、アンマンでも多数のパレスチナ人、アラブ人がデモ。
- ・シャミル、国論、内閣の統一を呼びかけ、ペレスは、被占領地問題は、軍事だけでは解決できないと語る。
- ・PLO、昨夜来殺されたのは五人と発表。
- ・PPS(パレスチナ通信社。蜂起の実情を領内から伝えていた)、六ヶ月の発禁処分うける。
- ・ヨルダン首相、ダマスカス訪問。
- ・シユルツ、「イスラエルには、秩序維持の義務がある。秩序維持は、断固として、権威をもち、可能な限り人間的にやらねばならない」と語る。

ガルフ戦争　へ砲撃を加えた。

- ・ファオ半島南部のブビヤ島（クウェート領）を、イラク軍の出撃拠点として、イランが攻撃。クウェートが、これに応戦。イラン－クウェートの初の衝突。
- 三月三一日（木）
パレスチナ人民の蜂起
- ・イスラエル軍との衝突で青年一名が射殺された。
- ・シャミル、ベツレヘム近くの新しいリゾート地オープント式典出席。パレスチナ人を「いなごのように一踏みで片づける」と豪語。
- ・今日、夕方五時から、外出禁止令解除。ただし、ガザの夜間外出禁止令は、そのまま。
- レバノン
- ・米国務省北アフリカ、近東局長マーフィー、シリアへ。同局シリアヨルダン、レバノン課長も同行。
- 四月一日（金）
パレスチナ人民の蜂起
・西岸南部へブロン近くのイドナ村

チナ人は会わないだろうと語る。
・ シリアは、「米—イスラエルの側
と、中東の他の国々との間に、何

- 西岸、ガザで、デモ、投石。イスラエル軍に救出依頼しなかつた

三月三十日（水）土地の日十二周年
た。

レバノン
・イスラエル、「SLA」が、「セ
キュリティ・ゾーン」外へ、侵略

ナブルス近くのベイタ村近くへ、入植村の青少年ハイキングがあつた。そのバスが襲われ、一五歳の少女が死に、最初は、パレスチナ人の投石によると発表されたが、後になって、パレスチナ人がハイキングのガードの銃を奪つて射つたにかわつた。さらに、「ガード自身が、乱射した際に、誤つて、その少女を殺したらしい」に変わつた。この事件で、軍と入植者の対立が生じていく。村人の中にはハイキングの入植者青少年への襲撃を止めさせ、「けが人を手当してくれる人があつた。イスラエルの側は、村人二名を射殺した。

ベイタ村事件

- ・アマルとハジビッラーの戦闘、停戦成立した。
 - ・シユルツ新「和平案」
 - ・シユルツ、サウジアラビア訪問。
 - ・ミサイル問題につき討議したときれる。

レバノン

二三〇〇人の村人のうち三〇〇人が連行、暴行され、尋問されてい る。

四月八日（金）

パレスチナ人民の蜂起

・ベイタ村事件

ハイキング・バスを襲撃したとい う口実で、八軒をイスラエル軍が ダイナマイトでふきとばした。

シユルツ新「和平案」

・予定外に、シユルツは、キプロス でジェマイエルと会談。

・アラファト議長、訪ソ。

四月九日（土）南部の花嫁サナの決死闘争三周年

デイエル・ヤシン村虐殺（二〇人 近くの村人がイルグーンのテロリストに殺された。現首相シャミルは、そのイルグーン出身である）。 パレスチナ人民の蜂起、五ヶ月めに入る。

・ベイタ村事件

■編集後記 ■

イスラエル軍参謀総長が、パレスチナ人と入植者の衝突をさけるよう訴えたのに対し、商工相シャヨンは、少女が殺された場所にセツルを建設せよ、助けようとした村人の家以外は全部焼きうちをかけよと、対立を煽った。さらに数軒がふきとばされ、村人の果樹園が破壊された。

・イスラエルに、初めてパレスチナ人政党 DAP（民主アラブ党）創立された。イスラエル労働党を辞めた（蜂起鎮圧政策への抗議）ダラウシが提唱したもの。

・帰国したシュルツ、今年中に、中東を再々訪すると発表。

四月一〇日（日）

・パレスチナ人民の蜂起

・アラファト議長、四ヶ月の蜂起で、死者二八〇人、負傷者七〇〇〇人、収容所に入れられた人一万七〇〇〇人と発表。

・ハイファでキブツ・バスに投石。八人のパレスチナ人が逮捕された。アルジェで開催と発表された。四月

アラブ・サミットの日程、六月一日、アラブ・サミットの日程、六月一日、アルジェで開催と発表された。四月

初旬説が流れていたが。

蜂起が始まつて以来、アラブ人のジャーナリストたちから、なぜ、日本では蜂起の報道が大きくされないのか、という抗議の声を聞く。そこで政治的意図があると聞かされ仕方がないだろう。日本は、米帝政治への追随しかやってないのであるから。◆三里塚反対同盟が再び分裂したことを探る

したことを伝え聞いたが、パレスチナ蜂起は、三里塚の闘いへの教訓になることが多いのではないか。もちろん、おかれている条件は違うが、パレスチナ戦場を故戸村委員長は訪問され、その闘いの共通性を見出していたということを、伝え聞いている。◆六月一五日に、アジア・太平洋治安担当閣僚会議が東京で開催されるという報道があつたが、テロ対策における“国際化”は、昨年以来めざましいものがある。注意しておかないといけないのは、国際「犯罪」に対するとの名目を掲げつつ、米帝が、「反テロ」を戦争の一形態としてみている事実である。日本の“国際化”は、こうした軍事の“国際化”を意味しており、「犯罪」という名目で、ごまかされてはいけないだろ

■編集後記■